

## 高島グラバー別邸調査・研究塾





### ■ 塾長コメント ■

塾開講 2 年目でもあり今年度は何か形に表さなければならぬと思いましたが、そこで今年度は成果報告として皆様が目の前で手に取る様に見ることが可能な別邸の模型製作をメインターゲットとすることを塾生一同で当初に決めて活動を行ってまいりました。模型を製作するには別邸の各部分の寸法や材料、また工法も現代とは違って当時の方法なども織り込み行うので大変難しい問題でした。ところが幸いな事に塾生で建築家の大草氏がおいでになったのでお力をお借りしてクリアすることができました。

また島原の星野建設様のお力もお借りして僅かな文献資料や写真を基に四方向からのパースを作っていただきました。

そこでこのパース、大草氏作成の建物の仕様書、写真 3 枚を基に模型会社との打合せを行い製作開始に漕ぎ着けました。今後伝習所まつりで皆様にご覧いただき、ご感想、ご批判、ご意見等を伺い模型の更なるブラッシュアップを行いより実際のものに近づけることを進めてゆく予定です。今後、新たな写真等資料の発掘を進めて行き、更に実際にあった建物に近づく努力を行ってまいります。模型は伝習所まつり終了後高島に持って行き港付近やその他来島者が来る所に展示することができ

ればと思いい現在その可能性と展示場所を探しているところです。これもひとえに塾生と星野建設の方々や模型を製作して下さったヤマグチ建築模型の方の大きな協力が有ったからだと思います。ほんとにありがとうございました。

### ■ 塾の目的 ■

高島グラバー別邸の調査・研究を目的としてその活動を通じて高島の活性化を図りかつての賑わいのある高島を取り戻したいと考えていました。

グラバー別邸とはグラバー氏が佐賀藩より高島炭鉱の経営を受託して英国より技術者と共に最新式蒸気機関や採炭機械を持ち込み北溪井坑の開発を行う為に北小島に開発のベースとしてグラバー別邸を建設、宿舎や事務所として活用した。その高島炭鉱も昭和 61 年閉山、それ以降島民の減少は著しく現在は 400 名弱と聞いています。

そのような中、北溪井坑が世界遺産になり多少は来島者も増加するかと期待していましたが来島者も従来と殆ど変わらない状況です。このような現実を目の当たりにしてわが塾も調査・研究を更に進め将来的にはグラバー別邸の復元を実現して少しでも町の活性化に貢献できるようにしたいと思います。

### ■ 塾の研究・活動内容 ■

塾の活動は毎月 1～2 回日曜日に主に出島交流会館にて行っています。活動としては塾で設定した課題の進捗状況の報告や新たな情報の入手先に付いての報告、提案等を行う。

また、古写真に大変詳しく研究をされている長崎大学名誉教授の岡林隆敏氏、長崎総合科学大学教授ブライアン・パークガフ二氏の

方々をお招きして塾の活動、グラバー氏、古写真等に関しての講演をして頂きその中で塾の活動に関する助言やアドバイスもいただきました。

また、高島現地にて現地確認と別邸の写真に写られている女性の親戚の山本氏のお話を伺いました。その折、知り合いで過去に高島にお住まいで現在時津方面に在住の赤坂氏を紹介されました。赤坂氏も高齢の方で今後連絡を取って体調の良い時にお話を伺うこととしました。

これらのまとめとして別邸のパースの作成を星野建設様のご厚意で行い、模型製作の参考にいたしました。

#### ■ 塾活動の成果 ■

2年間の活動結果の成果としては第一に人脈の獲得に有りました。

活動を通じて端島小中学校同窓会会長の石川氏、グラバー研究をしている建築家の中村享一氏、古写真の研究を行っている長崎大学名誉教授岡林氏、グラバー園名誉園長ブライアン・パークガフ二氏など多くの著名な先生方との人脈の構築ができたこととその中で多くのアドバイスをいただけたことが大きな成果だと思います。

また、上記以外にも高島を研究している方々には有名な少女が写っている写真の少女の血縁の方や知人の方とも連絡が取れて、その中から貴重な古写真の新たな発掘も期待されています。

次の成果は古写真 3 枚と故山崎氏が描いたスケッチ、発掘資料、それと文献から想像したパース製作とそれらを基に製作した模型です。模型は二十分の一のサイズでアクリルケースに入れられています。

この模型を 3 月 20 日の伝習所まつりに展示をして多くの長崎市民の方々にご覧いただき更にご意見、アドバイス等をお聞きできれば今後の研究に大変役立って良いと思います。

模型は伝習所まつり後、短期間長崎市内に展示(予定)後、高島へ運び常設展示をする予定になっています。

## 高島グラバー別邸調査・研究塾 活動記録

日 時	場 所	内 容
<b>平成 28 年</b>		
5 月 16 日(月)	長崎県勤労福祉会館	長崎伝習所「塾」開所式、第 1 回 塾会議を行った。
6 月 12 日(日)	出島交流会館	来月高島での塾の開催日時等予定の決定。
6 月 26 日(日)	出島交流会館	最終的な目標について打ち合わせを行った。
7 月 17 日(日)	高島行政センター	塾生と高島へ。在住の「うりずん」経営の山本氏よりお話を伺い、その後小舟にて高島を海上より観察。
7 月 28 日(日)	出島交流会館	高島訪問の成果と今後の調査項目等の確認。
8 月 28 日(日)	出島交流会館	山本氏よりご紹介された赤坂氏との面談準備等について打ち合わせを行った。
9 月 11 日(日)	出島交流会館	定例会
9 月 25 日(日)	出島交流会館	定例会
10 月 9 日(日)	出島交流会館	定例会 長崎大学名誉教授岡林隆敏氏をお招きしての写真資料の取り扱いについて講演。
10 月 23 日(日)	出島交流会館	定例会
11 月 13 日(日)	出島交流会館	定例会
11 月 27 日(日)	出島交流会館	定例会 グラバー園名誉園長のブライアン・バークガフニ氏をお招きしてグラバー氏に関する講演。
12 月 17 日(日)	出島交流会館	定例会 模型製作について話し合い。
<b>平成 29 年</b>		
1 月 22 日(日)	出島交流会館	模型発注の為の仕様書の確認と見積照会(2 社)等について打ち合わせを行い、方針を決めた。
2 月 12 日(日)	出島交流会館	模型の発注状況を説明、他伝習所まつりについて打ち合わせを行った。
2 月 26 日(日)	出島交流会館	伝習所まつり用展示資料製作に付いて打ち合わせ、決定をした。
3 月 12 日(日)	出島交流会館	伝習所まつり用準備の確認及び成果報告書の進捗状況について確認。
3 月 20 日 (月・祝)	ベルナード観光通り	長崎伝習所まつり 調査内容パネルの展示、クイズなどを実施。

### 長崎総合科学大学教授 ブライアン氏の講演

平成 28 年 11 月 27 日出島交流会館 4F にてグラバー氏及びグラバー別邸等についてブライアン氏に講演をしていただきました。以下その内容の一部をご紹介します。

グラバー氏が高島に係った事柄は何か。英国艦隊が 1854 年 9 月に長崎入港、長崎奉行との間で日英和親条約を 10 月 14 日締結、その後出航した。この際英国は既に周辺をくまなく調査して高島に石炭が有る事を確認していた。和親条約は通商条約とは違い商取引を行うものではなく、英国船が寄港した際、水、食料、石炭等の生活必需品や燃料の供給を平和裏に受けることができる条約である。ところが高島の石炭は長崎奉行管轄ではなく、佐賀藩が管轄していて手が出せない状況である。

そこでグラバー氏はこの石炭の供給状況を解決する為、日本と英国及び諸外国との間に立ち調整役として活躍した。このことはグラバー商会が 1870 年 2 月の新聞広告に石炭の販売を載せている。価格はトン当たり 4.5 洋銀ドルで有った。(当時の英字新聞に掲載されている。)

次に私設電話発祥の件だが世間一般では現在グラバー園内にあるグラバー邸と高島のグラバー別邸の間に私設電話が開設されたのが始まりとされているが、ところが実は 1898 年 5 月にノルウェー人の HM フライシャー氏が租界と三菱の間に開設したのが始まりとある。(これも当時の英字新聞に載っている。) 上記の例は「～と言われている。」などで表現されている事柄は事実とは判断できないので慎重に情報を取り扱うことが大切であるとの教訓である。

歴史を研究する場合は事実と認められるこ

とのみを発表すべきで事実と認められる証拠が無いものは慎重にその情報を取扱い、公表には更なる慎重さが必要であるとのアドバイスでした。上記講演の一部のご紹介でした。

最後に今後もブライアン氏との協力関係を築いて行くことを確認しました。大変有意義な講演でした。ブライアン氏に感謝いたします。

### 長崎大学名誉教授 岡林氏の講演

平成 28 年 10 月 9 日、塾生の上戸氏と共に岡林教授が塾を訪れ古写真等について色々アドバイス、講演をしていただいた。まず別邸の調査、研究の基本は古写真の発掘でありそのためには何としても三菱の資料館を調査する必要がある。そして調査を行う上で大切な事は資料となる古写真等はできるだけ画素数の大きいものでスキャンして置くことが大変重要である。これはのちに写真を複製したり写真を調査する場合に鮮明に復元できるからである。いままでは特に気をつけてはいなかった点で大変参考になりました。

最後に高島の活性化については高島の魅力は何かを新たに洗い出してそれを検討することが大切であるとのアドバイスをいただきました。突然の来訪で驚きましたが塾生にとって大変有意義な講演でした。

塾活動に関しての提言はこの活動をもっと多くの方々に知って頂き、より多くの隠れた情報、古写真を発掘することです。その為にはあらゆるチャンスを利用して塾活動を宣伝することが大切と思います。

そして一年一年グラバー別邸の模型を更新して、いつの日かより実物に近い物にすることが何よりの目標です。その目標に向かい塾生一同邁進いたします。

## 《塾生の感想》

### 二年目で、やっと形になった全体図

長かったような、短かったような、2年でしたが、漠然とグラバーの功績としての、大きな部分を、形にできたかなと思っています。

一年目の写真集めは、二年目でも進歩はありませんでした。それほど、難しい調査ですが、グループの熱心な熱い気持ち、グラバーこそが日本の近代化のパイオニアという思いが、ここまで事を運んだと思います。

私達が、こんな別邸をグラバーはスコットランドから呼び寄せたモーリス技師のために準備したのではないかと思っています。勿論、異論もたくさんあると思います。

それは、これから整えて行くべき調査です。この別邸の中は、何一つ分かりません。まだまだワクワクするような気持ちを皆持っています。これからも調査は続いて行くと思います。皆さんの助けも必要としています。協力をお願いしたいと思っています。

木下 美佐子



## 世界文化遺産とグラバー別邸の島・高島

少女がグラバー別邸を背景に写っているセピア色の一枚の写真は、我々塾生の好奇心を大いに掻き立てました。グラバー別邸の写真は少なくこの写真はグラバー別邸塾の二年目の課題である別邸模型づくりに貴重な資料と成りました。また写真に写っている少女の数奇な運命とファミリーヒストリーはグラバー別邸や高島をより深く理解するのに役立ちました。この写真の所有者は少女の実の娘で、現在福岡県で作家として活動し母の島である高島の民宿を譲り受け、毎年数回高島を訪れていた際、昨年偶然にも高島でお会いしました。後日、出身高校が私と同じで一年先輩であることが判明しなにか縁を感じました。この突然の素晴らしい出会いをした先輩からは写真の原板をお借りし、できるだけ鮮明なグラバー別邸の姿を再生しました。少女は大正三年に生まれ小学六年生まで高島に住み、その後一家で長崎市内に移り、写真撮影時はおそらく15歳ごろで遠足か何かで高島に来ていたときのもの。また少女の祖父母はトーマス・グラバー氏が高島を訪れていた頃、佐賀藩出身の祖父は執事として、また高島にお墓のある祖母はメイドとしてグラバー別邸で働いていた。そんなある日祖父母はグラバー氏から血の滴るようなビーフステーキを勧められるが断ったとの事。平成27年～28年の二年間、建築に造詣の深い浅尾塾長、大草様を先頭に塾生が力を合わせグラバー別邸の模型づくりと高島活性化のストーリーづくりに取り組んでまいりました。

今後、このグラバー別邸塾の成果が世界文化遺産とグラバー別邸の島・高島の活性化に少しでも貢献する事を願っております。

多良 敏男

## 古写真考古学の夢

初めて、長崎伝習所の門をたたきました。高島グラバー別邸調査・研究塾は、土の表面を一層一層けずって遺跡の発掘のような活動をするのかなと期待し入塾しましたが、高島グラバー別邸関係の古写真の発掘でした。

この目的は、古写真から高島グラバー別邸を復元し、世界遺産となった高島の北溪井坑と合わせて高島の観光に一翼を担おうということです。

塾の目的がわかったところで、自分なりの手段として図書館への通いがはじまりました。古写真関係、高島炭坑関係、洋風建築関係、外国人鉱山師関係、新聞の切り抜きなど調べてみました。私個人では知識は増えても、古写真を発掘するということについては、何も収穫はありませんでした。講演会に参加しても、高島の住民の方のお話を聞いてもなかなか高島グラバー別邸の復元までたどり着くような詳細な古写真や情報を発見するまでにはいたりませんでした。1868年頃のグラバー別邸建設からから1945年老朽化に伴い取り壊されるまでの約150年から70年近く前の記憶、記録にどうしたらたどり着けるのか。容易なことではないことがだんだんわかってきました。時空を超えて古文書が発見されたとの報道があるように、いつか突然発見されるものかもしれない。高島グラバー別邸古写真発見という夢を見ながら、草の根分けの人脈、資料からの糸をたぐる地道なものになるだろうと腹くくりました。自分一人では、古写真の発掘の夢ばかり見ていた1年でしたが、幕末期の歴史や高島への思いは、確実に熱くなるものがありました。

幸い1年目に集められた写真、手書きの絵画、関連資料などから、塾生皆で想像図を描

き、仲間の大草さんのお力をお借りして平面図を作製、そして別邸の復元するところまでこぎつける事ができました。真の高島グラバー別邸に近づく第一歩として、その復元に塾生として加われたことに喜びを感じ、さらにこの活動が将来において価値あるものとなることを期待しております。

飯島 静子

## 高島グラバー別邸調査・研究塾

塾長	浅尾 賢次				
1	飯島 静子	21		41	
2	上戸 好美	22		42	
3	大草 一俊	23		43	
4	小川 美穂	24		44	
5	神原 英太郎	25		45	
6	木下 静幸	26		46	
7	木下 美佐子	27		47	
8	木場 光則	28		48	
9	小峰 莉穂	29		49	
10	桜井 蓉子	30		50	
11	須田 清美	31		51	
12	多良 敏男	32		52	
13		33		53	
14		34		54	
15		35		55	
16		36		56	
17		37		57	
18		38		58	
19		39		59	
20		40		事務局員	文化財課 田中 学